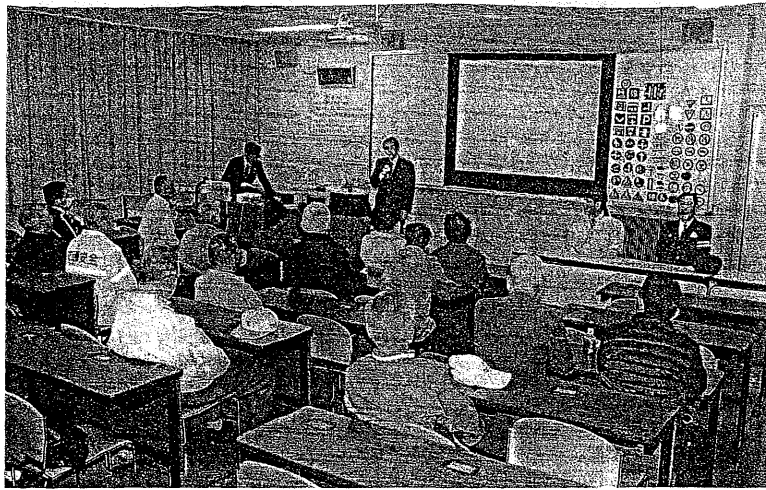


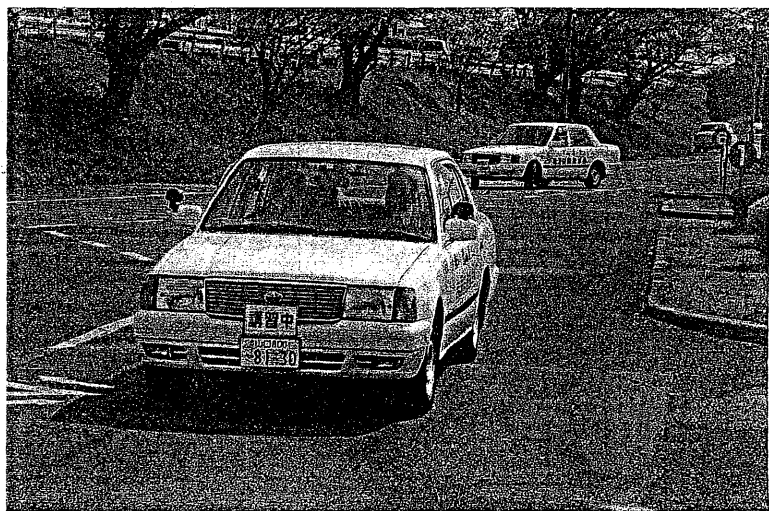
# 運転技術を再確認

## 自動車学校で シルバースクールに20人



岩国市錦見7丁目にある岩国自動車学校(松井源輝校長)で7日、シルバードライビングスクールが開かれ、参加した約20人の高齢者は教習コースを使い、自分の運転技術を再点検した。

近年急増する高齢者ドライバーによる交通事故をなくすと共に自動車学校の社会貢献活動の一環として着せ、毎年開催している。この日は時々雨が降るあいにくの天気となった。松井校長は「この行事は自動車を利用する皆さんに少しでもお役に立ちたいと企画している。この機会を通じて、自分の運転をよく確認させ、自動車免許を取得した当時の基本の忠実な運転を思い出して日々の安全運転につなげてほしい。近年の交通事故は、高齢者が被害になるだけでなく、高齢の運転者が関与する事故も増えている。高齢になると、若いころに比べると反応が遅くなる。早めのブレーキ、スピードダウンが必要。まずは運転の実技診断や交通安全講習も計画しており、一つでも身につけて、今後の安全運転に役立ててほしい」とあいさつした。



ただ、今年になって県内では11人が、岩国署管内では3月10日に昭和町で高齢者が一人亡くなった。昨年来、連続発生の傾向にある山口県の交通事故発生実態を踏まえ、今まさに交通事故抑制に取り組みの時期にある。昨年の交通死亡事故の最大の特徴は高齢者にかかわるもの。高齢者の歩行者、自

う、十分に気をつけてほしい」と話した。

岩国署交通課の兼重真一郎課長は、県内の交通事故情勢について説明した。それによると、昨年の交通死亡事故では79人が死亡、前年より15人増えた。そのうち、高齢者が関与したものは50人だった。

岩国署管内では10人が亡くなり、うち高齢者は9人だった。10件起きた事故のうち、高齢ドライバーが起した件数は4件だった。

兼重課長は、4件の事故について概要を説明し「運転ミス・判断ミスによるものが多い。頭では危険とわかっていても手足の反応がすばいには出ない。体が反応しないのは、高齢になると致し方ない部分もあるが、それを致し方ないで終わらせるのではなく、自覚することが重要になる。その意味で、今回のドライビングスクールは意味がある。きょうはしっかりと運転し、自分の運転の欠点などを自覚して今後の運転に役立ててほしいと訴えた。

運転技術を再確認 開会行事を終えた参加者は早速教習車に乗り込み、自動車学校の教習コースへと移動した。

車庫入れや周回運転などを行って自分の運転技術を確認した。バック(後進)で行う車庫入れでは慎重に操作しながらも左右の間隔がうまく測れず、ポールに接触しそうになったり、教習コースの交通標識を見落とした人もおり、「自分の車ではないので、すぐ戸惑ったが、なんとかうまく運転が出来たのでは」と自信を訴える人がいる一方で、「1日ごとの自分の運転で、いかに確認事項が欠けているかよく分かった」と反省する人もいた。

続いて、それぞれが約30分をかけて教習コースを周回しながら交通ルールを確認し、基本的な運転技術を再点検した。

終了後、各自の採点結果が出るまでの時間を利用して実際に発生した交通死亡事故などを紹介する教習DVDを見て、改めて交通事故の怖さを自覚しながら事故防止意識を高めた。